

令和7年度甲府南高等学校 第3回学校運営協議会（会議録）

日 時：令和8年2月12日（木）16:10～17:10

会 場：甲府南高等学校大会議室（北館1階）

（司会 教頭）

（1）開会の言葉（教頭）

（2）学校長挨拶

- ・学校評価については、忌憚のないご意見をお願いしたい。
- ・大学入試の合格状況について（推薦入試等：東京大2・京都大1など）
- ・3月1日（日）卒業式への出席のお願い
- ・中学生の志願状況について（第1回希望調査から厳しい状況が続いている）

（3）会長挨拶

- ・1年にわたる協力いただき感謝する。
- ・1年間を振り返り、本校のさらなる発展にむけて尽力したい。

（4）議事（会長）

①学校評価および学校評価報告書について（教頭）

- ・中間比と昨年比で顕著に下がっている項目についての説明
- ・（堀内委員）相互授業参観の項目が80%を割っているが、理由はあるのか⇒（教頭）相互授業参観の機会は設定しているが、多忙化もありなかなか参加数が伸びていない。職員が参加しやすい工夫をしながら次年度の取り組みを計画中である。

②令和8年度学校運営基本方針の骨格について

- ・本年度を基準に現在策定中。今回は原案としての提示。
- ・篠原校長が退職となるため、正式版は次年度4月の運営協議会で提示する。
- ・（細田委員）地元やまなしを支える人材育成は非常に良いコンセプト。一度県外に出て帰郷し活躍してくれる人材は県としても重要。
- ・（堀内委員）Uターン者の講演会等を実施するなど、ロールモデルを示すことが大切。
- ・（佃委員）山梨に戻ってこなくても、地元山梨を支えることは可能。「外から山梨を支える」という視点も組み入れたらどうか。⇒（校長）貴重なご意見を活かして、文言等を再考し4月に再提示する。

③その他

- ・給特法改正に係る対応について（働き方改革と連動）
- ・NEXT ハイスクール構想について（県の事業として実施。本校が候補になる可能性）
- ・教育長からのメッセージについて

(5) 報告事項（教頭）

①生徒指導部の取り組みについて

- ・気候変動に対応した柔軟な対応を行っている。
- ・生徒の意見を聞きながら、次年度の取り組みを計画中。

②保健指導部の取り組みについて

- ・スクールカウンセラーの活用は年々充実している。

③部活動等の大会結果について

- ・運動部、文化部ともに上位入賞を果たし、上位大会への出場が決定している。

④SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取り組みについて

- ・来年度は認定枠での申請で、結果は3月下旬に発表予定。予算は同窓会等からの協礼金等で対応するが、行事の精選も進めていく。

⑤その他

- ・DXハイスクールについては新規で申請中。採用予定が200校から100校に変更されており厳しい状況。

(6) 連絡事項

①令和8年度学校運営協議会委員について

- ・本年度を基準にお願いする予定。後日正式に依頼文書を送付。
- ・充て職の方で変更になる場合には、引継ぎをお願いしたい。

②令和8年度学校運営協議会の開催日について

- ・第1回学校運営協議会 令和8年 4月23日（木）
- ・第2回学校運営協議会 令和8年10月20日（火）
- ・第3回学校運営協議会 令和9年 2月 9日（火）

③その他

- ・なし

(7) 意見交換（教頭）

石原委員

- ・できなくても「自分は自分」であると考えられる生徒の育成
- ・学校が幸せな居場所であること。どんな子も替えが得ない存在であり、すべて子に光が当たるような指導をお願いしたい。

早川委員

- ・南高の先生方の指導は非常に手厚い。本協議会は多様な意見が集約でき、非常に貴重な機会となっている。

佃委員

- ・SSH運営指導委員との兼務。先生方の涙ぐましい努力に感謝する。
- ・SSHが認定枠へ移行するが、先生方のウェルビーイングのため、頑張りすぎないことも大切である。

細田委員

- ・意見を述べる程度であるが、南高のために協力したい気持ちはある。
- ・南高＝SSHのイメージは定着している。同窓会の協力を得ながら継続していく。
- ・新たな方向性への挑戦も必要である。

宮川委員

- ・2月のSSH研究発表会で、他校も発表に参加したことは非常によい。同年代の生徒と

の交流を通じて、お互いに多くの気づきがあるはず。

- ・NEXT ハイスクールの方向性は正しい。全員が数学Ⅲまで履修するなど、思い切ったカリキュラム変更も必要ではないか。

堀内委員

- ・将来興味が出てくることを多く見せてあげることが大切。将来の選択肢を増やすことにつながる。多分野の講師を招くことも大切。
- ・生徒アンケートから、今の生徒は勉強だけでなく、生徒会活動や部活動に魅力を感じていることが分かる。
- ・教育が国を支えていくことは間違えない。生徒減⇒教員減は短絡すぎる対応。
- ・ニーズに寄り添う南高であってほしい。

齋藤委員

- ・学校評議員のころから関わっているが、年々生徒の寄り添う姿勢が高まっている。
- ・文武両道の意識が非常に高まっていることを感じる。
- ・スクールカウンセラーの利用方法も生徒が使いやすくなるよう改善が進んでいる。
- ・少子化が進む中、教員のなり手がいない問題がある。教員の大変さのみが伝わってしまっている。

萩原委員

- ・学校評価は高めの設定（90%以上が高評価。80%未満が低評価）となっているが、客観的に見て非常に頑張っていると言える。
- ・教育におけるコロナの影響はまだ続いている。経験できていないことの影響は大きい。特に主体的に活動することに慣れていない生徒が多い。
- ・私立の無償化の影響は非常に大きい。公立の魅力発信はいままで以上に重要となる。
- ・地元の高校として、レベルを下げずに頑張っていってほしい。

(8) 閉会の言葉（会長）

- ・学業も部活動も頑張りたいという生徒が増えている。働き方改革も進めながら、本校が求められている教育活動を実践して行ってほしい。本会としてできる限りの協力はしていく。